

中学生

22 親子で協働するライティング・プロジェクト Project GAMBATEANDO

対象者・対象グループ

学年	中学1年生2名 高校1～3年生4名 高校中退1名	人数	計7名+ 保護者5名
滞日年数	3年7カ月（1名） 6年（1名） 日本生まれ（5名）		
つながりのある国	ブラジル		
母語	母語（ポルトガル語）と日本語（特に兄弟姉妹間）		
就学歴など	日本生まれの5人は地域の小中で就学後に高校進学。ブラジル生まれの2人は来日までブラジルで就学していた（小5および中3途中まで）。来日後は地域の小中学校へ編入。		

ココを見た！

	日本語	母語
聞く・話す	日常での観察	活動からの観察、 保護者との面談
読む	日常での観察 DLA （一部）	活動からの観察、 保護者との面談
書く	日常での観察	活動からの観察

包括的なことばの発達ステージと日本語の習得ステップ

ステージ （一番高い言語・技能）	<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input checked="" type="checkbox"/> 母語（ポルトガル語） <input checked="" type="checkbox"/> 聞く・話す <input type="checkbox"/> 読む <input checked="" type="checkbox"/> 書く			
ステップ	聞く・話す	4～5、7～8	読む	4～5、7～8
			書く	4～5、7～8

実践の背景

本実践は平日夜に行っているNPO法人の学びの場で、コミュニティと家庭の力を活用するものである。実践の場となった可児市国際交流協会における子どものためのポルトガル語教室（以下、サシペレレ）は14年の実績がある教室で、2024年度の参加児童数は119名である。サシペレレに子どもを通わせている保護者は、皆ブラジル出身者であるため、ブラジルの文化や言語をととても大切にしている。しかし、日本語の壁のために保護者は子どもの教育に積極的に関われずにいることも少なくない。さらにそれによって子ども世代は親に頼れない、という気持ちを持ったり、親や母文化に対する気持ちが不安定になったりすることからアイデンティティに揺らぎを抱えることも多い。

そこで本実践では、保護者と連携して子どもの二言語での書く力を余すところなく使って物語を作り、紙芝居に仕上げる活動を行うことで、多文化多言語の子どもとしての肯定的なアイデンティティを育むことを目標にした。また、極めて多様なことばのレベル（日本語・母語ともに）の対象者である状況を鑑みて、参加者の全てのことばの力がその価値を発揮するよう、プロジェクト全体をデザインした。

ステージ×ステップ

ステージ ステップ	A 【イマココ】 期	B 【イマココから 順序】期	C 【順序】期	D 【因果】期	E 【抽象】期	F 【評価・発展】 期
8	書く 読む 聞く・話す					高校生現在 高校生の目安 高校生 2人
7	書く 読む 聞く・話す				中1現在 中1の目安 中1 1人	高校生現在 高校生 2人
6	書く 読む 聞く・話す				目標	
5	書く 読む 聞く・話す			中1現在 中1 1人		高校生現在 高校生 1人
4	書く 読む 聞く・話す			高校生現在 高校生 1人		
3	書く 読む 聞く・話す					
2	書く 読む 聞く・話す					
1	書く 読む 聞く・話す					

実践の概要

ねらい	子と保護者の協働によるオリジナルの物語を日本語と母語で書くことができる 〈目標の力：E～F 6～8〉		
目標に向けた重点活動	<input type="checkbox"/> 聞く・話す	<input type="checkbox"/> 読む	<input checked="" type="checkbox"/> 書く
指導形態	—	指導扱い	—
指導時間	週1回（2時間半）×5回		

実践の見どころ

本実践では、多文化多言語の子どもたちとその保護者が協働して日本語と母語でオリジナルの物語の紙芝居を創作しました。外国に來たばかりの子を主人公とする物語や、国境を超える人々の体験に根差した物語、また、ブラジルで有名な民話の再話などです。その創作活動を通して、子世代・親世代共に複数言語環境に生きる中で封印してきた自らのアイデンティティを共に解き放ち、表現者としての自分たちの〈声〉を確立していったところが本実践の最大のポイントです。日本語が強い参加者（主に日本生まれの子ども世代）は日本語で、ポルトガル語が強い参加者（主にブラジル生まれの子どもと親世代）はポルトガル語での創作を主に担当しつつ、二言語の物語を完成させるために互いの言語資源を最大限に活用しながらイメージをすり合わせていきました。

なお、実践名であるGambateandoとは、ブラジルコミュニティでしばしば使用する日本語「がんばる」+ポルトガル語「～ando（現在進行形を示す語尾）」の合成語です。

指導計画（全5時間）

時	ねらい	学習活動等	その時間につけたい力や指導・支援のポイント	
1	ペアごとで書く内容を決定する	<ul style="list-style-type: none"> 多言語話者が書いた絵本を鑑賞し、自分たちの作品のイメージを作る ペアごとに書き始める 	☆どんだん文章にしていけるよう、あまり正確性や構成などについて気にせずにペア同士で話す（資料①）	♥多言語話者による絵本鑑賞を通じて自分たちの多言語性を肯定的に評価できるよう支援する ★母語・日本語の能力差があるペアの組み合わせによって協働しやすい状況を作る
2	下書きを完成する	<ul style="list-style-type: none"> ペアごとに書き続けて下書きを完成させる 	☆どんだん文章にしていけるよう、あまり正確性や構成などについて気にせずにペア同士で話す ☆基本的には時系列でどんだん書く	★母語・日本語どちらも使いながらブレインストーミングし、メモを作るよう促す
3	推敲と絵の割り付けなどの検討〈本時〉	<ul style="list-style-type: none"> ペアごとに表現を吟味して推敲する 紙芝居の絵の割り付けを検討する 	☆校正についてはその言語が強い方の参加者に主導権をとってもらう（資料②）	★物語の流れを考えて推敲する ★子ども向けの絵本・紙芝居に見られるような表現を用いて推敲する
4	作品の完成	<ul style="list-style-type: none"> （絵を含めて）作品を完成させる 	☆校正についてはその言語が強い方の参加者に主導権をとってもらう	★絵の割り付けを考えながら全体を構成する
5	作品の発表と共有	<ul style="list-style-type: none"> 作品を二言語で発表する（資料③～⑤） 	☆内容が良く伝わるよう、明瞭な発音で工夫して読む	♥自分たちの多言語性を聞き手に共感をもって聞いてもらえるよう表現する

授業の流れ（3 / 5）

ねらい（目標） おおむね時系列で書かれた体験談や民話の再話を、物語の流れを考えて再構成し、同時に子ども向けの絵本・紙芝居に見られるような表現を用いて推敲する。

分	学習活動等	指導・支援のポイント
10	推敲のポイント全体説明	★物語の構成について改善できる部分がないか問いかける 例)「びっくりして嫌だったことと、びっくりして嬉しかった事に分類して整理してみてもうかな？」 ★書いた物語が子ども向けの紙芝居として魅力的な表現になるように情景・心情描写、比喩・オノマトペの使用、子ども向けの表現への修正、メッセージの伝え方などについて推敲するよう促す
120	グループごとの推敲作業 絵の割り付けの検討 絵の制作開始	♡作品の内容面について肯定的なコメントを入れる 例)「楽しいこと、びっくりしたことがたくさん入った楽しい作文でした！「アマゾン」の部分でみんながびっくりしたことを書いているところで、みんなが想像したことについて思いを巡らせているところがとても良かったです。」 ★個別のフィードバックシートを配布し、個別支援をしながらグループごとに推敲できるよう促す（資料②） ☆語彙・文法の正確性にばかり気をとられないように声がけをする ★グループの中で役割分担をしながら絵の制作も同時に進める ♡全ての参加者が自分の言語資源を最大限に発揮できるよう声がけをする
20	各グループの今日の成果の共有	★それぞれのグループの良い所を全体にシェアする

資料① 初回のブレインストーミングの様子



資料② 本時で使用したフィードバックシート例（一部抜粋）

オリジナルの文章

友達に「どこに住んでるの？」と聞かれたとき、私は「アマゾンに住んでる」と言うと、みんなは私のことを民族だと思ったけど、事実を話したら、みんなおどろいていた。みんなはてっきり、民族だから、踊ったり、すごい衣装をしたりすると思われたらしい。

推敲後の文章

友「どこに住んでるの？」 私「アマゾンだよー」
「森に住んでるの？」 「違うよー、町だよ」
「えー服きるの？」 「そうよーふつうの服よー」
「へえ〜知らなかった」

モデル文を参考にしつつ、子ども向けの紙芝居にはどんな表現がふさわしいか母語を活用して母にも意見を求めながら推敲した。会話文のやりとりだけで分かりやすく説明できている。

3	友達に「どこに住んでるの？」と聞かれたとき、私は「アマゾンに住んでる」と言うと、みんなは私のことを民族だと思ったけど、事実を話したら、みんなおどろいていた。みんなはてっきり、民族だから、踊ったり、すごい衣装をしたりすると思われたらしい。	③「どこに住んでるの？」私「アマゾンだよー」 「森に住んでるの？」「違うよー、町だよ」 「えー服きるの？」「そうよーふつうの服よー」 「へえ〜知らなかった」	昼休み中
4	15才になった時初めてスキーをしました。ブラジルでは、ありえないことは、雪がつもること、スキー場に行った時、とても雪がつもってて新しい体験ができ、スキーはとっても楽しかった。	雪は本当にほしい！初めて見たー 「スキー場だね！」	
5	私が見た時、違いを感じたのが桜です。ブラジルでは、桜が一つもなく、しかし、人気のある木です。	日本の春はほんとにきれい！ これがSAKURA！ 心の中までピンク色になりたい！	満開の桜を見上げている絵？
6	あと、動物園です。ブラジルにはない動物がいて、例えばペンギン、白くま、カヤクジラがみれてうれしかった。水族館でもイカやクジラがみれてうれしかった。ブラジルと日本では、色や匂いがあって、街をたくさん知ることができて楽しかったです。	初めて日本の動物園へきたー ペンギンがわーい♡グリラが大きい！！ ブラジルで見たことない動物がみれたー 楽しかった。	
7			



③の場面の絵

オリジナルの文章

私が見た時、違いを感じたのが桜です。ブラジルでは、桜が一つもなく、しかし、人気のある木です。

推敲のモデリング

日本の春はほんとにきれい！
これがSAKURA！
心の中までピンク色になったみたい！

説明的な書きかたから、子ども向けの紙芝居にふさわしい表現にするには、主人公の心の声や会話文、比喩やオノマトペなどを活用することの具体例を提示して説明する。

資料③ 作品「セカイの反対側で DO OUTRO LADO DO MUNDO」の抜粋



ブラジルから見知らぬ国に来た時の心細さや寂しさを語った母の言葉を、子ども（兄）が自分のオリジナルである「孤独なクジラ」という比喻を使って巧みに表現した。絵は妹の作品。

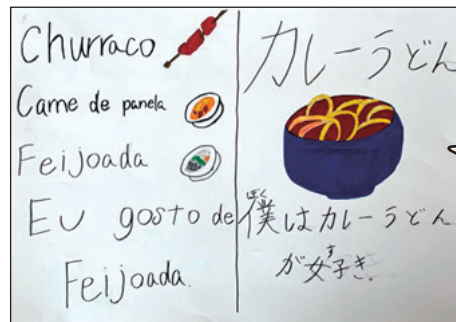
②毎日が過ぎて行て、私は孤独なクジラみたいだった

Os dias iam passando...e eu me sentia como uma baleia nadando sozinha.

資料④ 作品「Dividido ジビジード」の抜粋



Dividido は「半分半分」の意。



ブラジルも日本もどちらも好きな自分を表現するために画面を「半分半分」にして日本語とポルトガル語で別々の内容を書いた。

資料⑤ 発表時の様子



子どもの様子&実践者の気づき

本実践では、様々な形でトランスランゲージングが見られました。例えば、初めて日本に来た時の経験を子どもに語った母のポルトガル語を、子ども（兄）が日本語にし、その妹が絵で表現した作品（資料③）がありました。兄は母の言葉をそのまま直訳したのではなく、自分でオリジナルの比喻を駆使して表現し、それを再度ポルトガル語に直して聞かせていました。母は自分の語りをさらに素晴らしい表現や絵に昇華してもらったことに感激していました。

日本語でもポルトガル語でも話すことは得意ですが文章を書くのが苦手な子どもの語りを親が聞き取ってポルトガル語で作品に仕立て、それを子どもがさらに日本語に訳してみたグループもありました。最初は自分に作品が作れるか不安そうにしていた子どもが、少しずつ作品の形が見えていくにしたがって自信を持ち始め、日本語にはなかなか翻訳できないDivididoというポルトガル語（半分半分の意）をカタカナにして「ジビジード」というタイトルの作品（資料④）を仕上げました。発表時には子どもが日本語、父がポルトガル語で発表し、二人ともとても誇らしそうでした。

全てのグループが、日本語と母語の話す力、書く力を最大限に活用しながら互いに協力し合って作品を完成させ、出来上がった作品に誇りをもって発表をしました（資料⑤）。トランスランゲージングが、どれほど多文化多言語の子どもたちのエンパワメントにつながるのか、その力をまざまざとみることができました。

子どもが輝く授業のデザイン

今回の実践では保護者も非常に熱心に参加してくれたこと、中・高生が保護者との協働作文にとっても積極的に取り組んでくれたことなど、びっくりの連続でした。どの参加者も、メンターテキスト^注に触発され、自分たちも伝えたいことばがある、という強い想いを持って作品を作ることに没頭していました。そのプロセスの中で、互いの言語資源に頼りながら、自分のもつ言語資源を最大限に活用して作品を作っていく姿は、とても心動かされるものでした。出来上がった4つの作品はどれも子どもたちと保護者の〈声〉が響いてくる力作ぞろいでした。多言語話者だからこそ可能な表現を最大限に追求し、そこから作品作りを始めることで、子どもたちと保護者が「表現者」として輝くことができることを本実践は示すことができましたと思います。

注) 作品づくりのお手本となるような優れた作品のこと。今回使用したのはアメリカに住むインド出身の作家Mitali Perkinsが書いた絵本「Home is in between」。

実践者 坂江 レアンドロ ユウキ、馬木 照子（子どものためのポルトガル語教室「サシペレレ」スタッフ）
協力 NPO法人可児市国際交流協会
外部支援者 佐野 愛子（立命館大学教授）
報告書・実践記録集No.38

高校生

23 課外の日本語・プロジェクト活動
SDGs達成のためのわたしの行動宣言

対象者・対象グループ

学年	高校4年生	人数	1名
滞日年数	6年9カ月		
つながりのある国	フィリピン		
母語	英語 > タガログ語 > チャバカノ語		
就学歴など	2018年1月に来日。それまではフィリピンの小学校で学ぶ。来日後はフィリピンへの帰国は一度もなく日本で過ごす。中学時代は地域日本語教室で日本語を学び、2021年4月より現在の高校に通う。		

ココを見た！

	日本語	母語
聞く・話す	日本語能力試験N4合格、J-CAT、DLA	英検準1級合格、英語の講義聴解
読む	日本語能力試験N4合格、J-CAT	英検準1級合格、英新聞・小説の読解の観察
書く	日本語での作文	英語での作文、レポート

ステージ×ステップ

ステージ ステップ	A 【イマココ】 期	B 【イマココから 順序】期	C 【順序】期	D 【因果】期	E 【抽象】期	F 【評価・発展】 期
8 書く 読む 聞く・話す						年齢枠 の目安
7 書く 読む 聞く・話す						
6 書く 読む 聞く・話す						
5 書く 読む 聞く・話す						目標
4 書く 読む 聞く・話す					現在	
3 書く 読む 聞く・話す						
2 書く 読む 聞く・話す						
1 書く 読む 聞く・話す						

包括的なことばの発達ステージと日本語の習得ステップ

ステージ (一番高い言語・技能)	<input type="checkbox"/> 日本語 <input checked="" type="checkbox"/> 聞く・話す	<input checked="" type="checkbox"/> 母語(英語) <input type="checkbox"/> 読む <input type="checkbox"/> 書く	E
ステップ	聞く・話す 4	読む 4	書く 3

実践の背景

高校入学当初、対象生徒は滞日期間が3年強であったが、来日前後の学習環境の影響を受け、簡単な日本語のやりとりも困難な状況で、自信を失い、極めて消極的な様子が見られた。そのため、高1～3の活動では、基礎日本語による日常会話への参加や居場所づくりからはじめ、技能別日本語、進路につながるプロジェクトを通して徐々に自信を取り戻していった。一方で、在籍学級での授業への参加は、長期に渡り困難が続き、自律的な学びの習慣が定着せず、包括的なことばの力の停滞が推測された。

サバイバル (初期指導)	取り出し 指導	在籍指導 (入り込み含む)	放課後 NPO
	✓		
個人	小集団	大集団	オンライン
✓			

そのため、本実践では、対象生徒の最も強い言語である英語を活用し、本人が関心を示す社会的テーマについて他者との対話を通じて自律的に取り組める活動を計画した。具体的には、SDGs関連で生徒が最も興味を示した「目標1 貧困をなくそう」に焦点を当て、フィリピン・日本の貧困問題について自ら調べ、批判的に考え、議論に参加できるようになることをねらいとした。また、こうした活動の中で日本語でも複文を効果的に用いて発話を継続できるようになることを目指した。

実践の概要

ねらい	社会的な課題に関して自ら調べ、自らの考えを他者に伝えることができ、またその考えに基づいてどう行動していくべきか宣言することができる。さらに、自らのもつ複数の言語資源を最大限活用することを通し、その意義に気づき、マルチリンガル・アイデンティティを育むことができる 〈目標の力：F5〉		
目標に向けた重点活動	<input checked="" type="checkbox"/> 聞く・話す <input type="checkbox"/> 読む <input type="checkbox"/> 書く		
指導形態	取り出し指導	指導扱い	特別の教育課程 (プロジェクト活動)
指導時間	週2-3 (1回45分)		

実践の見どころ

日本語に苦手意識をもつ対象生徒は、「わからない」が口癖で受身な姿勢が目立つ生徒でした。そこで本実践では、生徒が主体的に学び続けられるよう、本人が関心を示した貧困問題について10のテーマを用意し、取り組みたい課題を生徒自身に選ばせました。フィリピンで貧困問題を身近に感じてきた生徒は、「政府による貧困層への現金給付の是非」をテーマに選び、街頭インタビュー形式で調査を行いました。これまでになく意欲的に取り組み、実践者の予想を超え、1週間で38名にインタビューを行いました。調査結果の分析や論理展開を考えた発表準備では、実践者は生徒の包括的なことばの力の伸びしろを意識し、疑問や考えを躊躇わず発言できるように日英両言語を戦略的にシフトさせながら議論を重ねました。その結果、生徒は日英両言語を駆使して、知的な議論への参加を楽しみ、批判的に考え、諦めず堂々と自分の意見を相手に伝えようとするようになりました。

指導計画 (全37時間)

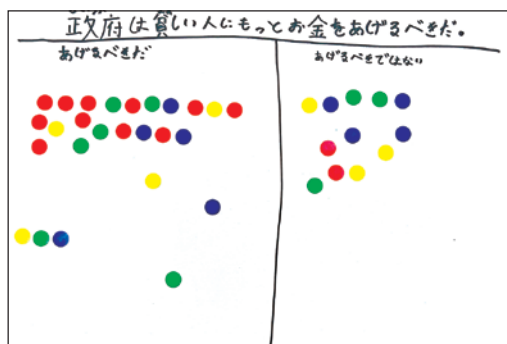
時	ねらい	学習活動等	その時間につけたい力や指導・支援のポイント	
1-20	<ul style="list-style-type: none"> SDGsとは何かその目的と意義を理解する 目標1「貧困をなくそう」に関する理解を深める 	<ul style="list-style-type: none"> 世界の貧困問題についての動画視聴、読解、ディスカッション (英語→日本語) 	☆SDGs・貧困に関わる語彙 (例：持続可能、開発、極度の貧困等) を部分的に使って話せるよう促す	★SDGsや貧困問題の実態・対策を理解するため、♡英語を活用し、「わかる」体験をする
21-27	<ul style="list-style-type: none"> 調査したいテーマを検討し、アンケートを作成、調査を実施できる フィリピンの貧困問題や政府の取組を調べ、自身の体験と照らし合わせて考えることができる 調査結果と統合し、自身の意見を述べられる 	<ul style="list-style-type: none"> テーマ選択・アンケート作成、調査の進捗報告 フィリピンの貧困問題についてICTを使って調べ日英両言語で議論する 調査結果と考察、自分の意見を作文にまとめる (英語→日本語) 	☆関連語彙や間接引用を含む複文構造を文脈の中で使えるよう促す (例：「お金をあげるべきではないという人は…」「フィリピンは農業する人が多い。日本はオフィスワーカーが多いから、UVを浴びない仕事が多い。等))	♡生徒自身がテーマを選択することで課題を自分ごととして捉えられるよう賛否両論のテーマを10個用意 ★調査で得た賛成/反対意見をICTを使って集計、傾向を分析。調査内容と自身の意見を論理的に統合できるように英語で議論を促す

時	ねらい	学習活動等	その時間につけたい力や指導・支援のポイント
28-37	<ul style="list-style-type: none"> 発表やレポートにおける論理展開や語彙・文体の選択の重要性を認識し、スライド作成ができる 大勢の人の前で日英両言語で発表をすることを通して自信をつける 社会課題に関する議論に参加することを通して知的な刺激を受け、学びへの主体性を高める 	<ul style="list-style-type: none"> 発表・レポートの構造を参照し、論理展開、レジスターに注意しつつ文章作成し、発表スライドにまとめる。(英語>日本語) スライドに沿って、日英両言語で口頭発表練習 国際交流サークルで口頭発表を実施。貧困問題に対する行動宣言を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ☆まとまりのある話ができるよう、文章作成の際に、関連語彙や名詞修飾を含む複文構造に意識を向ける ☆日本語での発表がスムーズにできるよう発表用資料を使って音読練習 ☆日本語での質問に対応できるよう、質疑応答の練習 ★客観的なデータを効果的に使って、説明したり意見を述べたりできるよう、スライドに示す語彙選択や論理展開の分かりにくい部分は英語で確認を促す ♡発表の質疑応答で共感的にかつ多角的視点から議論に参加できるようできる限りやさしい日本語や英語で、理解を促す

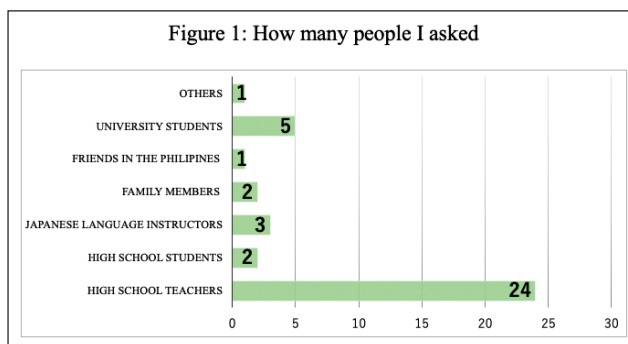
授業の流れ (24~25/37) 2コマ連続授業

ねらい(目標) アンケート結果の集計やグラフ作成を通して、周囲の人々の意見を客観的に捉えて整理することができ、発表に向けての動機づけができる。

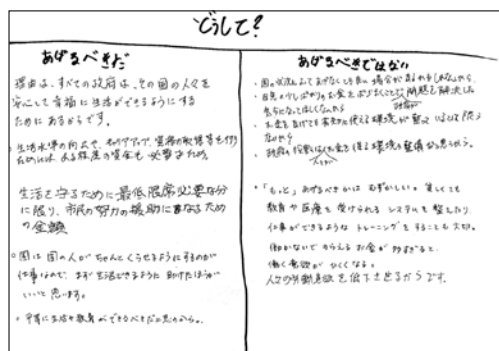
分	学習活動等	指導・支援のポイント
3時間目		
導入 5分	【アンケートの最終報告】 生徒が選んだ調査のテーマ： 政府は貧しい人にもっとお金をあげるべきか 調査ボード(資料①)にシールを貼ってくれた人の数を数え、本人の予想と実際の回答者の反応について質問し、調査の手応えについて話す	★賛成派と反対派の意見を述べた人の立場(先生、大学生等)の違いと回答理由の内容に傾向があるかどうか考察を促す ☆「お金をあげるべきだという人がxx人」「あげるべきではないという人がxx人」というふうに、名詞修飾を使って産出がしやすいよう促す
展開① 20分	【アンケートの結果集計】 <ul style="list-style-type: none"> Excelで回答者の属性別の表を作る SUM関数の使い方を学び、回答者別の合計が38名になることを確認する 	★調べた情報を回答者の属性別に整理することで、ランダムに集められた情報を他者に伝えやすい形にできることを英語で伝える。表は事前に例を準備し、どんなものを作成するのか視覚的に示す
展開② 20分	【Excelでグラフ作成】 <ul style="list-style-type: none"> Excel「挿入」からグラフを選択し作成する。 回答者の属性別のグラフを作成する(資料②) 賛成・反対意見の割合を示すグラフを作成する 	♡ICT活用の良さを実感し、知的な活動を楽しめるよう作成するグラフの見栄えにも気を配る ★生徒がグラフ作成する間、実践者は生徒が集めた記述式の日本語の回答をタイプして漢字にルビを振る。またAI翻訳で英語に翻訳し、集めた回答を生徒が隔々まで理解できるよう支援する
4時間目		
展開 ③④ 25分	【賛成派・反対派の意見の分析】 <ul style="list-style-type: none"> 集めた賛成・反対意見(資料③)をそれぞれ読み聞かせ、それぞれの意見の傾向を探る 両者の意見についての生徒の考えを引き出す 	☆日本語の読み聞かせで概要を掴み、★英語の翻訳で再度細部まで意味を確認するよう指示する ★賛成・反対意見の傾向を探り、両者に共通する部分がないか疑問や気づきを英語で産出させる
展開⑤ 15分	【発表・レポートの構造の確認】 <ul style="list-style-type: none"> 今後の発表・レポートの構造と論理展開を例を参考に視覚的に捉え、プロジェクトの「背景・目的・調査内容・考察」を整理する 	★発表・レポートの大枠を英語で考えさせ、全体像のイメージが掴めるよう指示する ★今後の発表の論理展開が明確に理解できるよう英語でその流れを産出させる
まとめ 5分	【振り返り・クールダウン】 <ul style="list-style-type: none"> 調査結果の考察内容を振り返り、生徒の考えを今後どうまとめるかブレインストーミング 	♡この日に作成したグラフを今後の発表・レポートに取り入れることを伝え、どんな展開で進めるか英語で考え、発表に向けての動機づけを行う



資料① 調査ボード



資料② 回答者の属性別グラフ



資料③ 生徒が集めた賛成・反対意見の理由（一部）

子どもの様子&実践者の気づき

本実践で、対象生徒は自身の言語資源をフル活用して積極的に対話に参加するようになり、苦手としていた授業外の取組にも変化が現れました。街頭インタビュー形式での調査では、水を得た魚の様に、高校教員らに日本語で果敢に質問し、家族にも英語で尋ね、多くの人々との対話から刺激を受け、知る喜びが芽吹いたようでした。特に、調査で自身と異なる意見に触れて驚き、反論を述べたり、反対意見の理由に理解を示そうとする発言も増えていきました。日本語での議論でも、以前は難しかった複文（「～と答えた人は…」等）の使用頻度が高まり、日英両言語で知的活動に取り組める手応えを実感している様子がうかがえました。

本実践を通し、生徒のもつ多言語多文化資源への意識化が、生徒を突き動かす原動力となることを目の当たりにし、その重要性を痛感させられました。

子どもが輝く授業のデザイン

本実践では、まず生徒のもつ多文化多言語を強みとして価値づける視点を関係者間で共有しました。その上で、フィリピンでの実体験とつながる社会的なテーマを準備し、生徒の得意な英語を積極的に活用して読解や推論、論理展開の把握等、負荷の大きいタスクに取り組みました。深い理解を土台に日本語でも調査や議論等の知的活動に挑戦できるよう設計しました。最後に計画した発表で、生徒は高校関係者等19名の聴衆を前にスライドを使って日英両言語で調査の結果と考察を披露することができました。

本実践を通し、生徒の理解と産出の円滑な流れに乗り、生徒の言語資源を戦略的に調整しながら対話を育む授業デザインの価値と可能性を実感しました。

高校生

24 NPOで取り組むプロジェクト活動
ロールモデルとの対話を通して未来を描こう

対象者・対象グループ

学年	高校1年生	人数	1名
滞日年数	2年0か月		
つながりのある国	ベトナム		
母語	ベトナム語		
就学歴など	中学2年生の12月に来日 週2回の日本語指導 進学した高校に日本語指導体制はなく、地域の多文化理解教室（学習支援）に月1回通う		

ココを見た！

	日本語	母語
聞く・話す	日常での観察	日常での観察
読む	DLA	読書行動の聞き取りと日常での観察
書く	DLA	母語での作文

ステージ×ステップ

ステージ	A 【イマココ】期	B 【イマココから 順序】期	C 【順序】期	D 【因果】期	E 【抽象】期	F 【評価・発展】期
ステップ						
8	書く 読む 聞く・話す					年齢枠の目安
7	書く 読む 聞く・話す					目標
6	書く 読む 聞く・話す					現在
5	書く 読む 聞く・話す					
4	書く 読む 聞く・話す					
3	書く 読む 聞く・話す					
2	書く 読む 聞く・話す					
1	書く 読む 聞く・話す					

包括的なことばの発達ステージと日本語の習得ステップ

ステージ (一番高い言語・技能)	<input type="checkbox"/> 日本語 <input checked="" type="checkbox"/> 聞く・話す	<input checked="" type="checkbox"/> 母語（ベトナム語） <input type="checkbox"/> 読む <input type="checkbox"/> 書く	F
ステップ	聞く・話す 7	読む 6	書く 6

実践の背景

対象生徒は来日して間もなく中3になり、高校進学に立ち向かうことになった。時間的な問題から生徒の得意科目（英語）で受験できる高校を選ばざるを得ず、対象生徒以外多文化多言語の生徒のいない高校に進学した。日本語指導や配慮が十分に得られない高校生活の中で、対象生徒からは卒業後に希望を抱けずに学習意欲が低下している様子がうかがえた。なお、実践者は、来日したばかりの頃から生徒をサポートしている。

そこで、月1回の地域で取り組む多文化理解教室（学習支援）で、苦手意識の強い日本語での書く力を高めながら将来に前向きなイメージを持てるような活動を計画した。具体的には、多様な言語・文化背景を強みに地域で活躍する起業家（ロールモデル）との対話を中心に据えた活動である。生徒が安心して母語（ベトナム語）で起業家と対話しながら包括的なことばの力を高め、進路や将来について希望をもって考えることができる場をつくりたい。起業家への質問事項なども制約せず、生徒が抱える不安が和らぐような時間にもしたい。

サバイバル (初期指導)	取り出し 指導	在籍指導 (入り込み含む)	放課後 NPO
			✓
個人	小集団	大集団	オンライン
✓			

実践の概要

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 多様な言語・文化背景を活かして起業したロールモデルとの対話を通して、社会的・職業的自立に必要な基盤となる能力や態度を育て、キャリア発達を促す 対話の内容から学んだことを活かした作文活動を通して、日本語の書く力を高める 〈目標の力：F7〉 		
目標に向けた重点活動	<input type="checkbox"/> 聞く・話す	<input type="checkbox"/> 読む	<input checked="" type="checkbox"/> 書く
指導形態	—	指導扱い	—
指導時間	毎月1回（1回60分）		

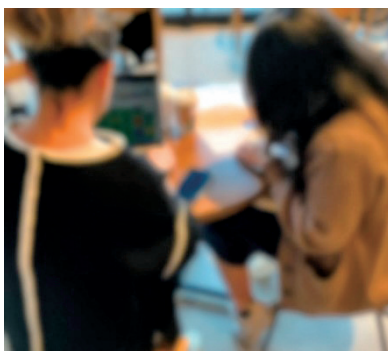
実践の見どころ

本実践は、来日初期から成長を見守るNPO主催のプロジェクトです。苦手とする書く力を高める過程で、対象生徒の母語（ベトナム語）がわかる起業家との直接の出会いの場をつくりました。それによって、生徒は母語を使って起業までの経緯だけでなく、それまでに遭遇した困難をどのように乗り越えたのか、という不安な気持ちなども率直にぶつけていました。こうした時間は、生徒にとって、今の自分と向かい合う時間にもなったようです。俯瞰的に自分を捉えることができた生徒は、「未来の自分に宛てた手紙（7年後の私へ）」という作文テーマを自ら選択しました。ロールモデルとの対話が生徒の包括的なことばの力を高め、日本語で書きながら将来への希望を高めていきました。

散在地域であるからこそ、丁寧に子どもの力をみとることの必要性、そして有限であるからこそ、エンパワメントの重要性を伝える実践です。

指導計画（全4時間）

時	ねらい	学習活動等	その時間につけたい力や指導・支援のポイント	
1	リソースの内容を理解し、問いを立てることができる	<u>問いを立てよう・調べよう</u> （課題をつかむ） 事前に読み、視聴したリソースの内容を確認し、起業家に質問したいことをメモする（資料①）	☆考えた質問内容を日本語で実践者に伝えることができる	★日英で書かれたリソースの意味や意図を読み解き、多角的・批判的思考力を持って意見を持つことができる
2	起業家に複数言語の力を活かしてインタビューできる	<u>質問しよう（探究する）</u> 前時のメモを使ってインタビューする（資料②）	☆インタビュー内容を実践者に日本語で伝えることができる	★抽象的で社会的な話題に関して、多角的視点を持ってインタビューできる
3	インタビューの内容を日本語で再話でき、感想を持つことができる 〈本時〉	<u>話そう・考えよう（探究する）</u> インタビューの内容を日本語で再話し、感想や疑問点を出し、描きたい進路や考えたことについてディスカッションする	☆中級後半レベルの語彙・表現を使って、一貫性のある意見を述べるができる	★インタビューで聞き取った内容について、情報を統合しつつ、因果関係を含めてまとまりのある説明ができる ♡多様な文化や言語を持つことを強みと感ずることができる
4	日本語でテーマ作文が書ける	<u>書こう（まとめる）</u> 前時でのディスカッション内容を使って作文を書くための構成メモを作成し、「7年後の私へ」というテーマ作文を書く	☆書きこぼらしい表現や文法を使用して文章が書ける。中学レベルの慣用的な表現・日常生活で使う語や句の組み合わせを適切に使いながら、独自の視点で作文が書ける	★書く前の読む活動、起業家との対話、対話後のディスカッションを通して書く内容を練り、構造的なメモを自律的に作ることができる。根拠となる具体例をインタビューの内容を振り返りながら考えることができる ♡将来に希望をもつことができる



資料② インタビューしながらメモを取る生徒（右）

子どもの様子&実践者の気づき

起業家との対話後に生徒が選んだディスカッショントピックは、「自分のやりたいことだけでなく、興味のないことにも積極的にチャレンジすることについて」でした。それは、来日後、将来の夢を思うように描けなかったことへの思いが根底にあるようでした。起業家がどのように多様な文化・言語の背景を活かして道を切り拓いてきたかについて深く知りたがった生徒は、「大学を卒業する年の自分に向けて書きたい」と言い、「7年後の私へ」という作文テーマが決まりました。

「7年後の私」に語りかけるような独創的な書き出しで来日した時の心情、現在の状況説明、未来への展望という3段落構成で書くことができました。作文の中で、「同級生に1年、2年、そして3年遅れて仕事をすることになっていいから、自分が本当にやりたい仕事をはっきり決めるために、さまざまな体験をしてから決める方がいい」「自分の夢に向けてちょっとずつ努力して頑張れば、その頑張りが段々重なって大きな成功になると信じている」という文面から、希望を持って将来を描こうとする意欲が伝わってきます。本実践のねらいは生徒の抱えるモヤモヤと合致していたようで、この作文を書き終えた時には「これからいろんなことを体験したい、そして7年後はもっと自信のある自分になっていると思う。」と、希望に満ちた表情で力強く語る姿を生徒から見ることができました。

子どもが輝く授業のデザイン

散在地域にある高校では、入試時に日本語指導が必要な生徒への配慮等がなされて合格したにもかかわらず、その配慮に準じたサポートが受けられない場合が多いです。それによって、学習意欲が低下する生徒も少なくありません。対象生徒も、そうした生徒の一人でした。モチベーションアップには包括的なことばの力を生かした対話が必須と考え、ロールモデルになりうるベトナム出身の起業家の協力を得た活動を計画しました。生徒は起業家との対話から来日後の自分が努力してきた時間を評価できたことで、希望を持って将来を描こうとする意欲を高めながら、日本語で書くことに注力できました。実践者は、「ずっと見守っているからね」というエールを込めて、生徒が大学を卒業する7年後に作文を届けることを約束しました。

高校生

25 必履修科目・言語文化（「新編言語文化」大修館書店）
文学はいいものだ―羅生門を楽しむ―

対象者・対象グループ

学年	高校1年生	人数	15名
滞日年数	約3～8年		
つながりのある国	フィリピン ブラジル		
母語	フィリピン語（タガログ語、ビサヤ語、イロカノ語） ポルトガル語 英語		
就学歴など	小学校低学年年齢で来日した生徒、小学校中学年・高学年年齢で来日した生徒、中学校年齢で来日した生徒などの集団		

ココを見た！

	日本語	母語
聞く・話す	個別面談 DLA 日常での観察	母語支援員による日常での観察
読む	DLA 多読活動での観察	母語支援員による日常での観察
書く	テーマ作文 日常での観察	日本語と同じテーマ作文

ステージ×ステップ

ステージ	A 【イマココ】期	B 【イマココから順序】期	C 【順序】期	D 【因果】期	E 【抽象】期	F 【評価・発展】期
8	書く 読む 聞く・話す					年齢枠の目安
7	書く 読む 聞く・話す					
6	書く 読む 聞く・話す				目標	
5	書く 読む 聞く・話す		現在	目標		
4	書く 読む 聞く・話す		現在	目標		
3	書く 読む 聞く・話す		現在			
2	書く 読む 聞く・話す					
1	書く 読む 聞く・話す					

包括的なことばの発達ステージと日本語の習得ステップ

ステージ (一番高い言語・技能)	<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input checked="" type="checkbox"/> 聞く・話す	<input checked="" type="checkbox"/> 母語（フィリピン語 ポルトガル語 英語） <input type="checkbox"/> 読む <input checked="" type="checkbox"/> 書く	C～E
ステップ	聞く・話す 3～5	読む 3～5	書く 2～5

実践の背景

「言語文化」は、上代から近現代に受け継がれてきた言語文化への理解を深めることに主眼を置いた高等学校の共通必履修科目である。本単元では、近代以降の文章である『羅生門』を通して、「B読むこと」領域の力を高めたい。主人公の心情推移が丁寧に描かれた高等学校国語の定番である本教材は、心情変化の起因が読み取りやすく、人間の心情と行動の関係を的確に捉えることに適している。

対象生徒は、ステージもステップも幅広い層の集団である。滞日年数が高い生徒ほど日本語を流暢に話すがステージが低く、読む力のステップも低い。全員が日本の中学校修了生であるが、日本語でも母語でも読書経験が少ないために、「文学を楽しむ」という経験のない生徒でもある。そのため、生徒の日本語固有の力にあわせた補助プリントおよびライト教材を準備しながら、理解を深めることを試みる。終盤では「羅生門」から文学作品について自分の考えをもち、中学校の後輩に伝える内容を考える活動を行う。一般論を述べるのではなく対象を意識し、対象に伝わる日本語表現や言葉を自ら選ぶことから、包括的なことばの力の伸長もめざす。

サバイバル (初期指導)	取り出し 指導	在籍指導 (入り込み含む)	放課後 NPO
		✓	
個人	小集団	大集団	オンライン
		✓	

実践の概要

ねらい	(1) 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる（知識及び技能） (2) 「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつことができる（思考力、判断力、表現力） (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする〔学びに向かう力、人間性等〕 〈目標の力：D～F 4～6〉		
	目標に向けた重点活動	<input type="checkbox"/> 聞く・話す <input checked="" type="checkbox"/> 読む <input type="checkbox"/> 書く	
指導形態 在籍指導		指導扱い 教科・科目（2単位）	指導時間 週2（1回50分）

実践の見どころ

初読の際は、ページ数からも文字数からも、見るからに難解そうな語句に圧倒されていましたが、骨太な文学作品がもつ魅力に引き込まれ、難解な語句に出会えばその意味を知りたがり、日本語の多様な表現を知れば自分のことばとして使いたがる生徒たち。学習の壁と思われる部分も好奇心で乗り越え、原文で『羅生門』を学ぶことができました。「生きるためにする悪いことは悪いことではない」と芥川が創り出した人物が提示した考えは、対象生徒の「ものの見方、考え方」を揺さぶったようです。

本時では終了のチャイムが鳴ると、あちらこちらから「楽しかった！」の声が聞こえてきました。『羅生門』のなかでも最も難解である主人公の心理を捉えることができたため、生徒はテキストを根拠に人間の善悪についての考えを持ちながら、仲間との意見の違いを楽しんでいました。まさに、「読む力」から日本語固有の力をも高めた時間でした。

指導計画（全20時間）

時	ねらい	学習活動等	その時間につけたい力や指導・支援のポイント	
1	【導入】 文学作品についての理解を深める	<ul style="list-style-type: none"> 単元の目標、課題を理解する 知っている文学作品を共有する 	<ul style="list-style-type: none"> テーマについて話す際に、重文、複文を用いて説明する 	<ul style="list-style-type: none"> ○★高校入学までで学んだ内容について、具体例を示しながら説明する
2 ～ 12	【展開①】 本文を読解する	<ul style="list-style-type: none"> 「羅生門」を読み、登場人物に関する叙述や、情景の叙述を基に、展開を捉え、下人の心情変化をノートにまとめる 下人の考え方を解釈し、その考えに対する自分の考えをもち、ノートに記述する 	<ul style="list-style-type: none"> 既習の語彙、漢字を理解し、習得している語彙から文章の意味を推測する 未習の語彙、漢字、表現の意味を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ○★本文の叙述を根拠にして、登場人物の心情を読み取る ○★読み取った内容を基に、自らの考えをもつ
13 ～ 19	【展開②】 自らの考えを深める。 〈本時〉	<ul style="list-style-type: none"> 「文学作品」の魅力について、紹介する作品を決めワークシートに記述する 「文学作品」の魅力についてグループ別で発表し、ワークシートを提出する 	<ul style="list-style-type: none"> 対象（中学生）を想定して使用する言葉を選ぶ 対象を想定して、重文、複文を使用する 	<ul style="list-style-type: none"> ○★本文のあらすじをまとめたり、魅力を考えたりする活動を通して、読解ストラテジーを増やす

時	ねらい	学習活動等	その時間につけたい力や指導・支援のポイント
20	【まとめ】 単元で学んだことを振り返る	・振り返りシート記述し単元を通してどのような学びがあったか省察する	<ul style="list-style-type: none"> ・書き言葉を意識して振り返りを書く ○★単元を通して、自らの学びがどのように調整されたか振り返る ♡自分の成長を感じ、学習意欲を高めている

授業の流れ (13/20)

ねらい (目標) ア. 作品の内容や解釈を踏まえ記述した「あらすじ」「自分の考え」「文学作品の良さ」を交流し、自分のものの見方、感じ方、考え方を深める。【思考・判断・表現】

分	学習活動等	指導・支援のポイント
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に記述したワークシートを基にグループで交流することを確認する ・交流で評価する項目を確認する ・教員が模範で発表を行う (資料①) 	○★グループワークで評価を伝えるときや助言をするときは母語も積極的に使用してもよいことを伝える
展開 40分	<p>各グループで記述の内容を発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表者以外は評価シートに各自の評価を日本語で記入し、発表が終わった後に発表者へ評価を伝える (資料②) <p>各グループで記述内容を修正</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価シートを用い、評価項目に沿って記述内容を修正する 	<p>○★発表する際は、グループの全員が発言することを確認する</p> <p>○★発表者に助言する際は母語等で助言してよい</p> <p>○★発表者は指摘が不明な場合は、評価者に質問してよい</p> <p>〈評価項目〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 紹介する作品のあらすじを伝えることができています 2. 紹介した作品からあなたが考えたことを伝えている 3. あなたの考える文学作品の良さを伝えている 4. 中学生の後輩に伝わる言葉を使っている <p>○☆★グループワークで指摘された点について、適切な日本語に修正するときは、翻訳ソフトを使わず、実践者や別グループに質問して問題を解決することを確認する</p>
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・次回の予告 	○♡次回の授業で発表原稿を完成し、発表を行うことを伝える

〈本時の様子〉



資料①

交流で評価する項目を確認したのちに、実践者が模範で発表を行い、生徒が評価を実施した。

実践者は「あらすじ」の中で、誤っている箇所を設け、生徒が作品を正しく理解できているか確認を行った。生徒は即座に誤りに気づき日本語で正しく訂正することができた。実践者の発表は、生徒の得意言語である英語で行った。



資料② 各グループで発表内容を精査している様子

子どもの様子&実践者の気づき

難解な語句の多い作品ですが、主体的に学ぶ姿勢がみられました。例えば、本時では各グループで「文学作品」の魅力を発表し合いましたが、積極的に互いの原稿を高める助言を行っていました。資料③～⑥は生徒が書いた記録の一部ですが、育てたい力を高めている様子が見えます。

『教材「を」学ぶ』という観点で単元を捉えると、『羅生門』を扱わないという選択もあり得るかもしれません。一方、『教材「で」学ぶ』という観点で捉えれば、『羅生門』という教材「で」どのような資質能力を高めることができるか、どう日本語の力を育てるか、生徒の包括的なことばの力がどんな化学反応を起こすかを考えながら教材研究ができるのではないのでしょうか。後者の捉え方で取り組んだことで、生徒は単元のねらいと共に日本語の力も高めることができました。

◎グループで考えます

□ ストーリー（あらすじ）の紹介

卡羅ゆな小説は、この小説は羅生門の物語です。羅生門は 6世紀です。
 羅生門のうしろには大きな町があります。
 羅生門に生きている人と死んでいる人がいます。
 下人と老女は生きているでしょうか？ 死んでいるのでしょうか？
 東濃高校にきたてやんぶよ
 羅生門のこと

□ 『羅生門』を読んだ感想

土人という
 2人 Y C Kazuma
 Acting Reading
 Y Q なるほど
 小説を勉強
 Y 言葉でいって
 かなに？
 line
 おもしろい小説
 刺さるが
 C なるよ！
 C line
 Yに羅生門という
 思ふ。

資料③ ストーリーを記述し、その後発表の方法を考えたC5の生徒の記述内容。疑問形を用いて聞き手が興味をもつような内容を書くことができた

□ 小説のよいところ

とどきするもと言読みたくなる

小説を読むとイ業はとどきします。もと言読みたくなる。
 「小説は長い物語^{ものがたり}があって色々な興^き味^みが持つ
 とってもとどきしてもと言読みたくな
 ります。」

資料④ D5の生徒は、小説のよいところを自身の体験を交えて記述することができた

□ 『羅生門』を読んだ感想

・この小説を読むと、人間の気持ちや考え方^かが^が状況^{じょうきょう}によって、
 わがります。

・小説の中にも、おずかしい漢字が使われています。

リが^りい^いち^ちる^るた^ため^めに^に、
 努力^{どりょく}が^がひつ^{ひつ}と^とに^にな^なります。

□ 小説のよいところ

資料⑤ C4の生徒は、「内容」「知識」の両面から感想を記述することができた

◎グループで考えます

□ ストーリー（あらすじ）の紹介

仕事^{しごと}が^がく^くび^びた^たい^いな^ない^いと^と思^{おも}う^うた^た下^{した}は^はある^{ある}秋^{あき}の^の日^ひ、雨^{あめ}が^がふ^ふら^らい^いて^て、羅生門^{らせいもん}の下^{した}で^で、下人^{しもじん}という人^{ひと}が^がい^いま^まし^たた。
 「これからどうするかな」と思^{おも}い^いながら、ある2つ^{ふたつ}選^{せん}択^{たく}が^があ^あつ^つた^た、それは
 食^く死^しか^か盗^ど人^{にん}か^か。それ^{それ}を^を経^へつ^つけ^て、考^{かん}婆^ぱと^と出^で会^{かい}い^い。考^{かん}婆^ぱと^と出^で会^{かい}い^い。
 て、^{（生きたために、）}悪^{あく}い^いこ^こし^して^てい^いよ^うと^と考^{かん}婆^ぱが^が言^いっ^つて^て、下人^{しもじん}は^はあ^ある^る勇^{ゆう}気^きが^が出^でて^て来^きた^た。
 理由^{りゆう}を^を聞^きい^いて^てあ^あつ^つた^た。
 最後^{さいご}は^は—

資料⑥ 発表後に修正した発表原稿

記述した内容の過不足を修正したE5の生徒の記述内容。作品を紹介するときの情報量を精査したことが読み取れる

子どもが輝く授業のデザイン

対象生徒の見取りの違いについて、本単元での書く力から示したものが資料⑦～⑧です。

資料⑦のE5の生徒は日本語表現に誤りが見受けられますが、叙述を基に文章の主題や展開を的確にとらえています。資料⑧のC2の生徒は、母語も使って思考する過程が表出しています。これらの記述内容からもステップとステージの差が確認でき、生徒個人が必要とする指導の違いがわかります。個々の課題を把握したうえで授業デザインをすることによって、生徒は単元の目標と、個々の目標を達成するために主体的に学ぶことができました。

複数の生徒を同時指導する授業において見取りを丁寧に行うことが、生徒ごとの目標設定、目標達成までの指導や支援の方法を明確にし、個別最適な学びに確実につながると考えます。

口下人のことをどう思いましたか

私は、下人のことをちょっと分からなくて、下人の立場も
分かりませんでした。だって、新しい仕事をしなければいいのに、
下人から言いわけがたんさん出てきて、最後は盗人にな
った。同時に考えて、下人は調子狂いのって、それだけ、下人はどんな人間か
分かりました。

資料⑦ ステージFを目標としているE5の生徒

口下人のことをどう思いましたか

私は下人のことを *wagay. kanyo koda ko kasabot, ladok kanyo*
kay mangula siyang mag gamit ang bulok sa patay, (ang
花渡)

資料⑧ ステージDを目標としているC2の生徒

高校生

26 必修科目・科学と人間生活（数研出版）
衣料と食品―既習事項とデータの関連性を考える―

対象者・対象グループ

学年	高校1年生	人数	14名
滞日年数	半年～3年		
つながりのある国	ネパール タイ 中国 フィリピン		
母語	ネパール語 タイ語 中国語 ビサヤ語（英語）		
就学歴など	半数が日本の義務教育学校での学習経験がなく（ダイレクト生徒）、残り半数程度が中3くらいで来日して地域の中学校を卒業している生徒の集団		

ココを見た！

	日本語	母 語
聞く・話す	日常での観察 中学校からの申し送り	日常での観察 母語教員による観察
読む	日常での観察	母語教員による観察
書く	テーマ作文	日本語と同じテーマの作文

ステージ×ステップ

ステージ	A 【イマココ】期	B 【イマココから 順序】期	C 【順序】期	D 【因果】期	E 【抽象】期	F 【評価・発展】期
ステップ						
8	書く 読む 聞く・話す					年齢枠 の目安
7	書く 読む 聞く・話す					
6	書く 読む 聞く・話す					
5	書く 読む 聞く・話す					目標
4	書く 読む 聞く・話す			現在	目標	
3	書く 読む 聞く・話す			現在	目標	
2	書く 読む 聞く・話す			現在		
1	書く 読む 聞く・話す					

包括的なことばの発達ステージと日本語の習得ステップ

ステージ （一番高い言語・技能）	<input type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 聞く・話す	<input checked="" type="checkbox"/> 母語（ネパール語 タイ語 中国語 ビサヤ語） <input type="checkbox"/> 読む <input checked="" type="checkbox"/> 書く	D～E
ステップ	聞く・話す 2～4	読む 2～4	書く 2～4

実践の背景

大阪市生野区に位置する本校は、多部制単位制Ⅰ・Ⅱ部の定時制の学校で、2022年度より「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒入学者選抜」対象校となり、2024年10月現在、約150名の多文化多言語の生徒が在籍している。学校設定教科「自己実現のための日本語」による日本語授業、および、学習指導要領に則った必修科目講座をやさしい日本語（N講座）で開講し、多文化多言語の生徒の学びを支えている。単位制のために時間割が生徒一人ひとり異なり、授業はクラス単位ではなく、その授業をとっているメンバーで受けることになる。

本実践の対象は、来日後半年から3年の生徒であり、日本語での日常会話に困難を抱えている生徒もいる。そのため自身の考えを発信する際に、正しい表現なのか、意図したことが相手に伝わっているのかなどの不安感から、消極的になってしまいがちである。発信への不安感から、授業中はインターネット等で調べた最

サバイバル （初期指導）	取り出し 指導	在籍指導 （入り込み含む）	放課後 NPO
	✓		
個人	小集団	大集団	オンライン
		✓	

終的な答えだけを翻訳アプリに写して入出力することが多く、答えにたどり着くまでの段階的な概念の習得や理解をしないことが多い。また自らの考えを持ちながらの学習ができていないことも課題である。

生徒には考える力があると思うので、それを理科という教科の中で、どう表現するのかを本実践から学べるような構成とし、言語の壁によって授業に参加できないことを防ぐために、生徒に伝わる日本語やプリント作りを工夫した。実践者は生徒の母語を理解しようとする態度を大切にしながら、「なぜ？」という問いかけを授業中に続け、生徒に自分の考えを持たせることを常に意識した。

実践の概要

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・実験などを通じて、栄養素とその働きを理解することや、栄養素についての既習事項を活用して論理だった説明をすることができる ・栄養素を日常生活と関連付けて理解することができる ・衣料の構成物質との類似点と性質の相違点を理解することができる 〈目標の力：E～F 4～5〉		
目標に向けた重点活動	<input type="checkbox"/> 聞く・話す	<input type="checkbox"/> 読む	<input checked="" type="checkbox"/> 書く
指導形態	取り出し指導	指導扱い 教科・科目（2単位） 少人数指導	指導時間 週2（1回50分）

実践の見どころ

本実践は「特別的教育課程」での運用ではなく、教科内容のレベルを学習指導要領に合わせつつ、使用する日本語をやさしくし、視覚情報や母語を活用した必履修科目「科学と人間生活」の授業実践です。対象生徒らは、普段の授業で調べた内容を翻訳し、それを写しただけの出力をすることが多く、その結果として自らの考えを持てずに学習に参加してしまいがちです。よって、本実践では、教科内容と日本語を同時に学べること、既習事項とデータを関連付けて、自分なりの理論を立てられるようになること、自分が持つ日本語でデータとデータを結ぶ根拠が書けることに重点を置きました。

授業内で生徒にデータどうしの関係性についてしつこく言及すると、既習事項を踏まえた上での生徒自身の考えがではじめ、自分から定型文をまねて文章を作成し始めました。生徒が自ら考え、データを自分なりに解釈しながら腑に落ちる、そんな瞬間を授業内で作り出すことができました。

指導計画（全5時間）

時	ねらい	学習活動等	その時間につけたい力や指導・支援のポイント
1	栄養素の種類や三大栄養素が体の中でどう使われるか、また繊維との関連性を理解する	<ul style="list-style-type: none"> ・五大栄養素の紹介とその働きを確認後、三大栄養素の体内での反応をプリントにまとめる ・タンパク質・炭水化物の原料が動物・植物繊維と同じであることに気づく 	☆教科学習語彙を自分で調べ、覚える ☆質問の文章を読み取る ★因果を意識し、体内での栄養素の反応を自分なりに説明できる ○栄養素の種類と三大栄養素が体の中でどのように反応をするのか、また栄養素と繊維の関係性を理解する

時	ねらい	学習活動等	その時間につけたい力や指導・支援のポイント
2	実験を通して脂質のエネルギー生産の多さやピーナッツの燃焼と体の中でのエネルギー生産が同じであることを理解する	<ul style="list-style-type: none"> • ちり紙の燃焼で水を沸騰させることができるかを確認する • ピーナッツに含まれている脂質の量を求める • ピーナッツ1つを燃焼させ、水を沸騰させる • ピーナッツの燃焼と体の中でのエネルギー生産を関連付けて考える 	☆教科学習語彙を自分で調べ、覚える ☆教員の説明通りの実験操作を行う ★自身の予想と実験結果の比較を行い感想を書く ○既習事項と関連付けながら、体の中でのエネルギー生成と燃焼という現象を結び付けて考えられる ○脂質のエネルギー生産の多さを理解する
3 4	様々なデータを見て、論理だった結論を導くことができる	<ul style="list-style-type: none"> • 三大栄養素の体内での反応を復習し、まとめる • 2つのデータ（肥満者と歩行数）を見て、質問に答える • 3つのデータから自分で結論を導けるデータを1つ選択し、肥満者のデータと関連付けて、質問に答える • 9つのデータから、自分でデータを選択し、肥満者のデータと関連付けて、質問に答える 	☆教科学習語彙を自分で調べ、覚える ☆定型文を参考に論理だった文章を作成する ★既習事項を踏まえた上で、一貫性のある文章を作成する ★○様々なデータを解釈し、論理だった結論を導く ○三大栄養素が体の中でどのような反応をするのか理解する
5	給食の栄養素を分類し、バランスのとれた食事について理解する	<ul style="list-style-type: none"> • 健康的な食事（給食）を紹介し、五大栄養素に分類する 	☆教科学習語彙を自分で調べ、覚える ○栄養素を分類し、健康的な食事とは何なのかを考えられる

授業の流れ（3～4/5）

ねらい（目標） 様々なデータを見て、論理だった結論を導くことができる

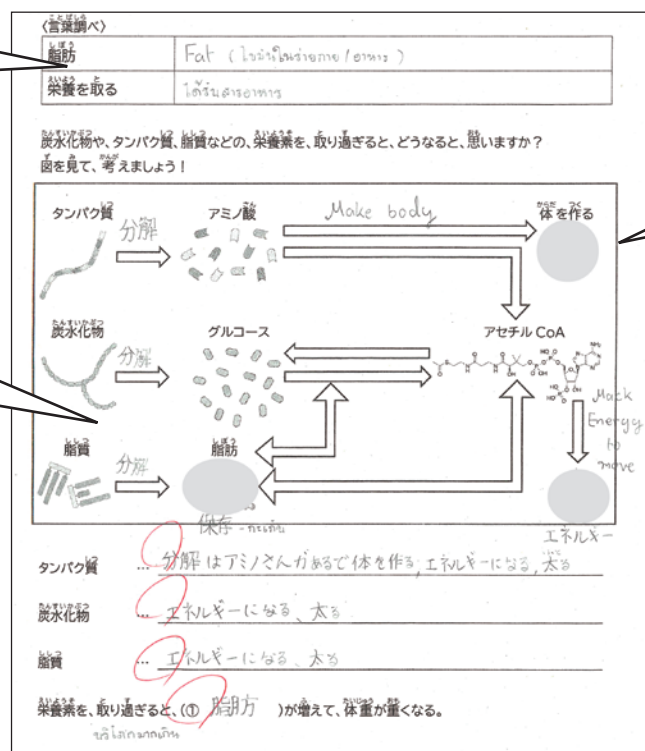
分	学習活動等	指導・支援のポイント
5	授業で使われる語彙・表現の意味を調べる	☆授業内で使用される単語の意味を生徒自ら調べるように促し、授業内容の理解につなげる
25	前回の復習も兼ねつつ、三大栄養素が体内でどのような反応をするのかを図を見ながら確認する（資料①） <div>「タンパク質・炭水化物・脂質を食べるとどうなりますか？ 図を見て考えましょう。」</div>	伝わる日本語や簡単な英語で説明をする ○★復習を丁寧にしつつ、「体内での三大栄養素の反応経路の図」を用意し、日本語に頼らなくても、反応経路を視覚的に理解できるようにし、新しい内容も少し含めて、既習事項の深化を図る
20	2つのデータ（肥満者の割合と一日で歩く量）を確認し、既習事項と合わせながら理論の組み立て方を学ぶ（資料②） 【定型文】 「Aすると、□□□。だからB。」 【例】 「一日で歩く量」が減ると、エネルギーを使わない。だから「肥満者の割合」が増えた	☆定型文を紹介する ○「一日で歩く量」（右肩下がり）と「肥満者の割合」（右肩上がり）の変化がはっきりと確認できる2つのグラフから、どういった形で結論に持っていくのかを紹介する ○★□□□に入る文を、ただ単に、「1日で歩く量」が減ると「肥満者の割合が増える」のではなく、なぜ、歩く量が減ると肥満者の割合が増えるのかという、その2項間の因果を同じ母語の生徒同士で話し合い、考えるように促す ★簡単な英語での説明を加える <div>「□□□には、どんな文章が入入ると思いますか？」</div>

分	学習活動等	指導・支援のポイント
20	1つのデータ（肥満者の割合）と3つのデータ（炭水化物、脂質、タンパク質の1日の摂取量）のうちから各自で選んだ1つのデータを使って、自分なりの理論を組み立てる（資料③）	○事前の見本を参考として改めて示す ○どのデータを使えば自分の理論を組み立てやすいかに着目するように声かけをする ☆日本語の文章で大きな間違いがある場合は、フィードバックを行い、訂正を促す ★考える活動において、母語の活用を促進し、思考を深める
20	1つのデータと複数のデータのうちから各自で選んだデータを使って、自分なりの理論を組み立てる（資料④）	○理論の組み立てに妥当性や客観性がない場合は、「なんで？どうして？」と問いかけて、組み立て方を再度考えるように支援する ★生徒同士の学びあいを促進する ☆★生徒によっては、定型文以外での表記方法を促す
10	自分の理論を発表し、クラスで共有する。 最後にまとめを記入する	

資料① 生徒のプリント「体内での三大栄養素の反応経路の図」

語彙・表現は毎回調べます。授業で使います。

【意識するポイント】
栄養素は動くためのエネルギーになるか、脂肪になるかというところ です。



この図を見ながら、
下の問いに答えます。
前回の授業では、三
大栄養素を個別に
扱っていましたが、
今回は三大栄養素を
一つの図の中で、関
係性がわかるように
しました。

資料② 生徒のプリント1

○2つのデータを見て、質問に答えましょう。
【質問】肥満者の割合が増えているのは、なぜですか？
obese person

【回答】使ったデータ番号(①、⑤)

「一日歩く量」が「減る」と、運動する量が減るから体の脂肪が「もえないから」

「肥満者の割合」が増えた。

○3つのデータを見て、質問に答えましょう。
【質問】肥満者の割合が増えているのは、なぜですか？

【回答】使ったデータ番号(①、②)

「一日で脂肪を食べている量」が増えると、食べた脂肪が多いと、体の中心に脂肪が分解して、そのまま体の脂肪になるから体が太りますので、

「肥満者の割合」が増えていると思います。

○たくさんのデータを見て、質問に答えましょう。
【質問】肥満者の割合が増えているのは、なぜですか？

【回答】使ったデータ番号(①、②、③)

「一人暮らしの数」が増えると、家で一人で住むと、自由に自分が何でも食べていいから、調理済みの食品を買う割合が増えているし、調理済みの食品のカロリーは大体高いから「肥満者の割合」が増えていると思います。

【まとめ】
肥満者の割合を減らすためには、どうすればいいと思いますか？

栄養素をバランスよく取るために、食べ物をバランスよく食べて、一日少しだけでもご飯食べた後に外へ歩く。

スマホの使用禁止

調べた内容のコピペにならないようにするためです。

モデル文を提示した後に、実践者からの説明で、「エネルギーを使わないから」と書いたのですが、実践者の説明よりも前に自分の考えを書くことができていました。そのため、質問の2つめからは、自分で文章を作成することを意識させました。

日本語が多少不自然でも構わないスタンスです。それよりもデータをつなぐ自分の考えを書くことが重要です。
この生徒は3つのデータをつないで、自分なりの論理を組めているところが素晴らしいです。データからは読み取れない憶測の情報も含まれていますが、その点は年次が上がるにつれての指導と思っています。

資料③ 授業の風景

外食が太る理由を生徒と考えた形跡です。

データを黒板に貼り付けています。生徒の手元にもデータがあります。

生徒間の相談はもちろんOKです。

自分で考えた答え書いて、発表してもらいます。

今回は、スマホの使用について、単語の翻訳だけOKにしました。

資料④ 生徒のプリント2

2つめの質問に関して、他の生徒と相談しながら、どのデータが使いやすいかを考えていました。データの選択まではできていましたが、なぜ肥満者が増えるのかの結論に達するまでの理論を組み立てることができず、教員の板書を写すことになりました。

3つめの質問は、自分でデータを選択できていました。最初は「お金がかかる」、次に「新鮮でない」という考えを出しましたが、それでは、肥満者が増える説明につなげられないと自分で判断して、最終的に「不健康な食生活になる」という考えに変えました。肥満者が増える理由となる文章を完成できずに終わりましたが、ここまでの考えるプロセスを重視しました。

02つのデータを見て、質問に答えましょう。

【質問】肥満者の割合が、増えているのは、なぜですか？

【回答】使ったデータ番号(1と5)

「一日で歩く量」が増えたとエネルギーを消費する量が減った。

日本人のカロリーが少なくなった。

03つのデータを見て、質問に答えましょう。

【質問】肥満者の割合が、増えているのは、なぜですか？

【回答】使ったデータ番号(2と④と⑤)

一日で6つを食べていると6倍のカロリーを消費するから。

ふとる日本人のカロリーが少なくなった。

0たくさんのデータを見て、質問に答えましょう。

【質問】肥満者の割合が、増えているのは、なぜですか？

【回答】使ったデータ番号(6)

カロリーは1日1000カロリーとカロリーを消費する量が減った。

カロリーを消費する量が減った。

子どもの様子&実践者の気づき

対象生徒にとって、グラフを比較し、既習事項を踏まえた上で、自分の考えを日本語で表現することは認知的負担が軽い課題ではありませんでしたが、どの生徒も真剣に考え、自らの答えを導きだそうとしていました。本実践を通して、自らの考えに基づいた説明をすることが難しかった生徒が、自らの考えを持つことを意識しながら、説明できるような定型文を学習し、理論的な文章を作成することができました。授業中に教員からの「なぜ？」という質問に対して真剣に考え、既習事項を踏まえた上での生徒自身の考えがではじめたことに生徒の成長を感じました。

子どもが輝く授業のデザイン

日本語教師ではない、いち高校教師の私が生徒にできることは、自分が母語以外でコミュニケーションをとるときに、相手にどういったことばで話しかけられると安心するのか、どういった態度をとってもらえると自分に自信が持てるのかを常に考えることだと思っています。教科指導なので伝えることは伝えますが、生徒への伝え方はもちろん、伝わり方にも意識をしながら授業を作成しています。また1回1回の授業で伝えたいことは何なのかを自分の中で明確にして、それをシンプルかつダイレクトに生徒に伝わるような構成にすることも心がけています。

本実践においては、生徒一人ひとりの考えを引き出すために、いち教員対14人の生徒ではなく、いち教員対いち生徒×14回の気持ちで臨みました。そうすることで、生徒の考えに対して、しっかりとリアクションをとることができ、生徒の考えを引き出すことにつながりました。

学校全体で生徒を見ていくことに関して、まだまだ課題はありますが生徒にとって学校で過ごす全ての時間が学びに繋がることをより多くの教員と共有していきたいです。

高校生

27 学校設定科目「日本語」・プロジェクト活動
自分のコトバでヴォイスを表現しよう

対象者・対象グループ

学年	高校1年生	人数	30名
滞日年数	約1～8年		
つながりのある国	フィリピン ブラジル ネパール カンボジア		
母語	フィリピン語(タガログ語、ビサヤ語、イロカノ語) ポルトガル語 ネパール語 クメール語 英語		
就学歴など	小学校低学年年齢で来日した生徒、小学校中学年・高学年年齢で来日した生徒、中学校年齢で来日した生徒、中学卒業程度認定試験を経て入学した生徒、1年程度の海外で9年を終えて直接入学した生徒(日本の学校経験のないダイレクト生徒)などの集団		

ココを見た！

	日本語	母語
聞く・話す	個別面談 DLA 日常での観察	母語支援員による日常での観察
読む	DLA 多読活動での観察	母語支援員による日常での観察
書く	テーマ作文 日常での観察	日本語と同じテーマ作文

ステージ×ステップ

ステージ	A 【イマココ】期	B 【イマココから順序】期	C 【順序】期	D 【因果】期	E 【抽象】期	F 【評価・発展】期
ステップ						
8	書く 読む 聞く・話す					年齢枠の目安
7	書く 読む 聞く・話す					
6	書く 読む 聞く・話す			目標		
5	書く 読む 聞く・話す		現在	目標		
4	書く 読む 聞く・話す		現在	目標		
3	書く 読む 聞く・話す		現在	目標		
2	書く 読む 聞く・話す		現在			
1	書く 読む 聞く・話す					

包括的なことばの発達ステージと日本語の習得ステップ

ステージ (一番高い言語・技能)	<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input checked="" type="checkbox"/> 聞く・話す	<input checked="" type="checkbox"/> 母語(フィリピン語 ポルトガル語 ネパール語 クメール語 英語) <input checked="" type="checkbox"/> 読む <input checked="" type="checkbox"/> 書く	C～E
ステップ	聞く・話す 2～5	読む 2～5	書く 2～5

実践の背景

対象生徒は、ステージもステップも幅広い層の集団である。日本の小中卒業生もダイレクト生もいるため、滞日年数も日本語学習歴も異なる。なかでも、滞日年数が長く日本語を流暢に話す、書くことへの苦手意識が強いというに自己肯定感が低いと感じられる生徒が多い傾向にある。そのため、本校での日本語の授業では生徒の興味関心事項をもとに、卒業後の社会的自立を目指した単元計画を立案している。それによって、生徒個人の学習意欲の向上だけでなく、生徒間のチームワークや学校行事の参加への積極性など、生徒の行動や姿勢にも変化が起きている。

サバイバル (初期指導)	取り出し 指導	在籍指導 (入り込み含む)	放課後 NPO
		✓	
個人	小集団	大集団	オンライン
		✓	

本実践では、対象生徒の興味関心が高かった「音楽」をテーマに、自己に誇りを持ちながら日本語での書く力を育てたいと考えた。日本語での書く力を高めるなかで、自他共に認め合い、生徒が自己肯定感を高めることができるよう、エンパワーメントしながら包括的なことばの力を育て、生徒ひとりひとりの自信につなげていく。

実践の概要

ねらい	これまで歩んできた人生を振り返り、自分のもっている全ての言語リソースを使った「コトバ」で内面の声（ヴォイス）を表現することができる 〈目標の力：D～F 3～6〉		
目標に向けた重点活動	<input type="checkbox"/> 聞く・話す	<input type="checkbox"/> 読む	<input checked="" type="checkbox"/> 書く
指導形態 在籍指導	指導扱い 教科・科目（4単位） （学校設定科目：日本語Ⅰ）	指導時間 週4（1回50分）	

実践の見どころ

ラップから人種差別問題や当事者意識に触れることで、対象生徒の包括的なことばの力を育てながらヴォイスを日本語で表現することができました。本実践は音楽をテーマにしながらも、生徒一人ひとりが歩んできたこれまでの時間にスポットライトをあてていきました。モデルとして実践者自らが人生を示すなかで、「教室は安全な場所である」ことを生徒が体得できるように心がけました。

本実践では大人数であるからこそその強みを生かして、活動ごとに意図性をもってグループを編成しながら実践者3人で協働し、授業を進めていきました。各実践者が生徒個別にどの力を高めるためにどのような働きかけを行うか、という具体的な目標をもって指導を行うことで、生徒は仲間同士で学び合いながら個別の目標とする力を高めることができました。

指導計画（全24時間）

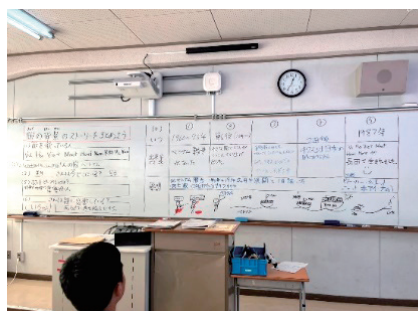
時	ねらい	学習活動等	その時間につけたい力や指導・支援のポイント	
1 ～ 7 導入	<ul style="list-style-type: none"> 好きな曲についての理由や背景のストーリーをまとめる 好きな曲について、発表する 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の好きな曲を選び（国内外問わず）、その理由や背景にあるストーリーをまとめる 日本語で書いた文章を見直す 自分の好きな曲について、クラスメイトに日本語で紹介する 	<ul style="list-style-type: none"> ☆○自分の好きな曲の歌詞やその理由等を日本語で紹介する ☆○単文や複文を使って様々な接続表現や指示語などを用いながら、日本語で話す 	<ul style="list-style-type: none"> ★歌詞の背景にあるストーリーや心情について、自分の経験をもとに伝える ★好きな曲の理由とともに自分の意見を述べる ★構成を意識し、時間内で相手に分かりやすくプレゼンテーションする
8 ～ 19 展開	<ul style="list-style-type: none"> ラッパーの曲を読み取る（資料①） ラッパーの心情を解釈する（資料②～③） 教員のライフヒストリーと心の動きを読み取る（資料④） 自分と向かい合いながら自分の強みに気づく（資料⑤） 	<ul style="list-style-type: none"> インドシナ難民として日本で暮らす自分を表現したラッパーの歌詞を読む リライト教材を読み、ベトナム戦争やボートピープルなどの歴史について理解した内容を学級で全体共有する 	<ul style="list-style-type: none"> ☆○日本語で書かれた歌詞を聞き、そして読みながら、日本語の言葉や文章の意味（漢字や熟語など）を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ★ベトナム戦争とインドシナ難民、日本でのインドシナ難民の受け入れ、ラッパーの関係性を理解する
		<ul style="list-style-type: none"> 歌詞からラッパーの心情を読み取りながら「気持ちグラフ」にまとめ、グループ内で発表する 	<ul style="list-style-type: none"> ☆○既習した漢字や熟語、歌詞に出てくる用語等を積極的に用いながら、自分の考えを単文や複文で書く 	<ul style="list-style-type: none"> ★歌詞から読み取れる心情をグラフにまとめる ★他者の意見と比較しながら、自分の考えをまとめる
		<ul style="list-style-type: none"> 実践者それぞれが、20歳までの出来事を「気持ちグラフ」で伝える（モデル提示） 	<ul style="list-style-type: none"> ☆○実践者の話の言葉や内容を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ♡★モデル提示を理解しながら、これまでの自分の歩みを考える
		<ul style="list-style-type: none"> 20歳までのストーリーを「気持ちグラフ」で表現する 「気持ちグラフ」から、自分の人生の象徴的な出来事を一つ選んでまとめる 	<ul style="list-style-type: none"> ☆○使いたい言葉や、表現したいことを単文や複文を使って、自由に書く 	<ul style="list-style-type: none"> ★ワークシートに自分の出来事をまとめる ★人生の一コマを自分のコトバで表現する
20 ～ 24 終末	<ul style="list-style-type: none"> プロのラッパーからの語りからリリックに込める思いを理解する 	<ul style="list-style-type: none"> プロの在日コリアンラッパーの動画を視聴しながら、リリックができるまでの過程を知る ラップの歴史を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ☆○動画で聞き取った新出語彙や日本語での表現（漢字や熟語を含む）を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ♡リリックに込められた大切な思いを理解する ★ラップ表現できる醍醐味を考える
	<ul style="list-style-type: none"> ラップで自分の内側のヴォイスを自分のコトバで表現する〈本時〉（資料⑥） 	<ul style="list-style-type: none"> プロのラップを鑑賞する ヴォイスを自分のコトバで表現する 音楽が持つ力や自分のコトバの強みについて考える 	<ul style="list-style-type: none"> ☆○ラップで使いたい言葉や表現したいことを単文や複文で話す 	<ul style="list-style-type: none"> ★♡人生の一コマを自分のコトバで話す
	<ul style="list-style-type: none"> 自分のコトバの強みに気づく 	<ul style="list-style-type: none"> 「自分の人生を変えたできごと」（ナラティブ作文）を書く 半年前の作文と見比べる 	<ul style="list-style-type: none"> ☆○既習の語彙・表現等を使って、単文や重文、簡単な複文を用いて書く 	<ul style="list-style-type: none"> ★♡自分のコトバの強みについて考える ★本単元で学んだことから根拠を示しながら、自分の意見や考えを述べる
				<ul style="list-style-type: none"> ★♡自分の経験を俯瞰的に捉えながらまとめる ★♡自己の成長をたたえる

授業の流れ (22/24)

ねらい (目標) ラップで自分の内側のヴォイスを自分のコトバで表現することができる

分	学習活動等	指導・支援のポイント
10 導入	①プロのラッパーと出逢う ②授業のルールを確認する ③プロのラップを生で観賞する	☆リリック内容が想起できるように、単語などを整理する ★プロのラップ観賞からヴォイスの表現方法を体感し、自分が表現するイメージをもてるようにする
35 展開	ラップにチャレンジ! (資料⑥)	☆使いたい言葉や、表現したいことを単文や複文で伝えられるように、自由で安心できる雰囲気づくりをする ★ラップで表現したいコトバや内容は、変更や追加をしてよいことにする ♡ラップで表現しようとする生徒を励ます
5 週末	録音したラップを全員で聞き、活動を振り返る	☆録音したラップを聞き、自分や他者が表現したコトバやラップの内容を振り返る ♡ヴォイスを表現したことへの価値づけをする

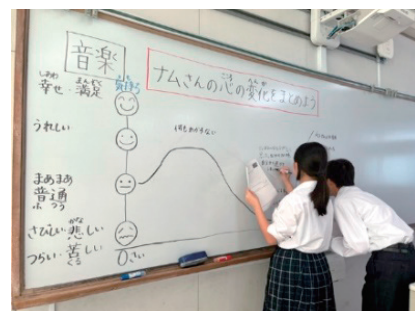
〈資料〉



資料① 歌の背景にあるストーリーを共有。中には、絵で表現した生徒も



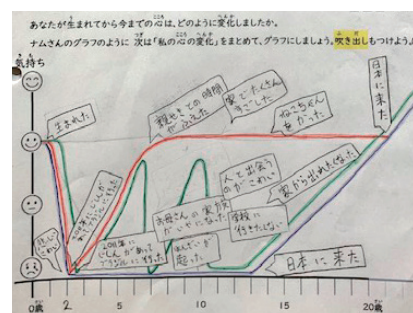
資料② グループに分かれてラッパーの心情を読み解く



資料③ ラッパーの心情を「気持ちグラフ」にしながら全員で共有



資料④ 教員から「気持ちグラフ」を紹介。安心して自分を出せる雰囲気を作る



資料⑤ 自分の「気持ちグラフ」を書く。静かに自分と向き合う時間を設ける



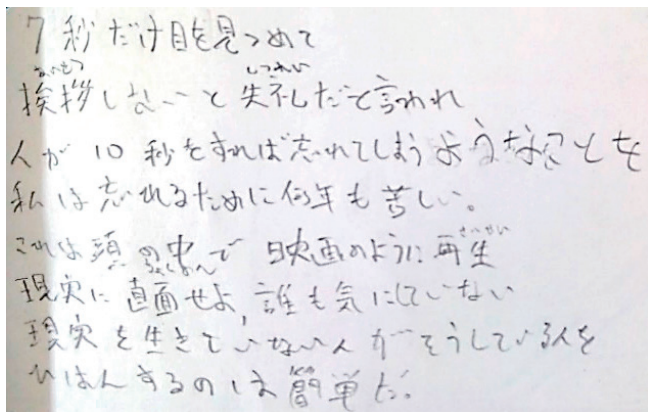
資料⑥ 一人ひとりのコトバをラップで表現

子どもの様子&実践者の気づき

大人数であっても意図的にグループを編成することで、個の生徒に応じて目標とする力を育てることができることがわかりました。ステージもステップも異なる生徒対象の実践でしたが、仲間との学び合いによって、すべての生徒が日本語での書く力を高めることができました。

本実践の要である自他共に認め合える安心・安全な環境を創るために、まずは実践者がモデル提示（自己開示）することを大切にしました。その成果として、人生の一コマを語ったヴォイスに溢れるリリック（資料⑦～⑧）となり、当日出席したすべての生徒がラップで披露してくれました。

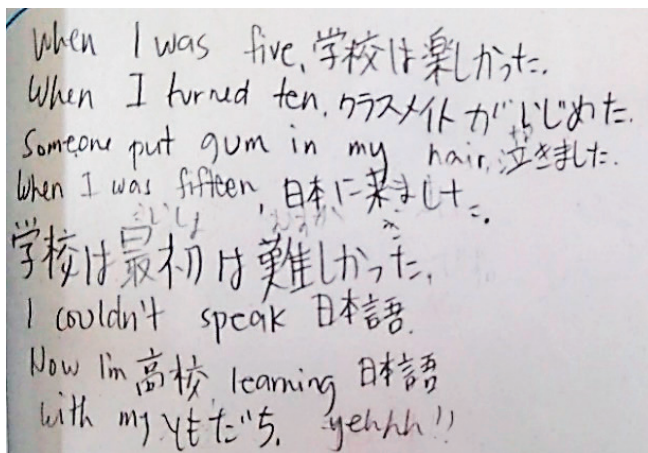
資料⑦ D5の生徒のリリック



実践者のコメント

自分の経験を例示しながら読み手に訴える文が書けている。書き言葉らしい文体を使いながら、結束性がある文である。

資料⑧ C2の生徒のリリック



実践者のコメント

教員の支援を得て、自分の経験について初級前半の文型（た形）を使い、文章の一貫性に気を付けながら、順序やつながりを意識した文になっている。

子どもが輝く授業のデザイン

包括的なことばの力を最大限に生かしながら自分の人生を俯瞰的に捉えることで、生徒は日本語固有の力を伸ばしました。最後に取り組んだナラティブの作文は、合格発表時に実施したテーマ作文であるため、半年前に書いた自分の作文を見比べることで、生徒は自己の成長を目で確認しました（資料⑨）。授業を通して、目標とすることばの力を育てながら、同時に良好な人間関係や信頼感を育てることができました。

資料⑨ C5の生徒

2024年3月の作文

私の「これまでの人生で自分を变えたできごと」は、毎日勉強がはるです。
 日本のことは、私の一番の問題です。日本語のことは、むずかしいです。
 しかし、ばら教習と蘇南中学で、毎日勉強します。蘇南中学では、つやくの先生が
 あります。びや言語とタカロゴ言語の先生が あります。蘇南中学は、国際教室で
 あります。毎日、小学校の漢字と日本語1・2の勉強します。とても、たげます。

2024年10月の作文

これは、女の子が、東濃高校の一年生の生徒になって、生き方が変わったお話です。

それ以来の女の子は、いつか外国に行ってみたいと思っていました。女の子の親さんが女の子に言った「日本で一緒に住むか?」。女の子は、そのニュースを聞いてびっくりしました。そのために、女の子はこの時7歳でした。この時、女の子の心の中がややこしいにしました。

女の子には、友達がたくさんいるし、大好きないともフィリピンにいるし、家でペットがいるし、おばあちゃんから離れたくないと思っていました。だからこそ女の子は親さんに「次回にしよう」と言ったのです。女の子の妹も同意します。その時は、何もかも置き去りにしたくないから。親さんは、女の子の決断を支持した。

時がたって、女の子は12歳、中学1年生の生徒だった。世界は、大きな問題を抱えている。また、女の子は、家族の問題もありました。その時は、とても辛かった。女の子がその時臨んでいたのは、世界の問題からは逃れられても、家族の問題からは逃れることだけだった。なぜなら、彼女が聞いた傷つく言葉に「ナイフを刺された」ような感じ。だから、女の子は妹と一緒に親さんと一緒に暮らすことにした。

女の子は日本に来た時、すべてが変わった。新しい場所にいる、言葉は全然違う、季節は4つあります。女の子は日本で暮らし始めてからずっと幸せになりました。新しい友達ができた、新しい言語を学びました。どこか静かな場所へ逃げ出したいと思ったことはありませんか?

実践者のコメント

3月では単文で表現していたが、10月の作文では自分を「女の子」と表現しながら、両親から日本に行くことを告げられた時の心の葛藤を詳しく書くことができた。ステップもステージも伸びている様子がうかがえる。

実践者

和田 さとみ（岐阜県立東濃高等学校 助教諭／国際部長・日本語）

井関 真希（岐阜県立東濃高等学校 特別非常勤講師・日本語）

立石 虎太郎（岐阜県立東濃高等学校 教諭・理科）

山端 佳子（岐阜県立東濃高等学校 教諭・社会）

報告書・実践記録集No.45

高校生

28 論理国語・論理的に書く—小論文①(大修館書店「新編論理国語」) みんなが生きやすい街とは—社会のウェルビーイングを考える

対象者・対象グループ

学年	高校2年生	人数	10名
滞日年数	2～5年		
つながりのある国	ネパール 中国 フィリピン		
母語	ネパール語 中国語 フィリピン語		
就学歴など	半数が日本の義務教育学校での学習経験がない(ダイレクト生徒)、2名は小6で来日、残りは中3ぐらいで来日し地域の小中学校を卒業している生徒の集団		

ココを見た！

	日本語	母語
聞く・話す	日常での観察	日常での観察 母語授業での観察
読む	日常での観察	母語教員による観察
書く	テーマ作文 入学後の成果物	日本語と同じテーマの作文 母語教員による評価

ステージ×ステップ

ステージ ステップ	A 【イマココ】 期	B 【イマココから 順序】期	C 【順序】期	D 【因果】期	E 【抽象】期	F 【評価・発展】 期
8 書く 読む 聞く・話す						年齢枠 の目安
7 書く 読む 聞く・話す					目標	
6 書く 読む 聞く・話す				現在	目標	
5 書く 読む 聞く・話す				現在	目標	
4 書く 読む 聞く・話す				現在	目標	目標
3 書く 読む 聞く・話す				現在	現在	
2 書く 読む 聞く・話す						
1 書く 読む 聞く・話す						

包括的なことばの発達ステージと日本語の習得ステップ

ステージ (一番高い言語・技能)	<input type="checkbox"/> 日本語 <input checked="" type="checkbox"/> 聞く・話す	<input checked="" type="checkbox"/> 母語 <input type="checkbox"/> 読む	<input checked="" type="checkbox"/> 書く	D～E
ステップ	聞く・話す 4～6	読む 4～6	書く 3～6	

実践の背景

多部制単位制Ⅰ・Ⅱ部の定時制の本校は、2024年10月現在、約150名の多文化多言語の生徒が在籍している。本実践の対象生徒は10名を超え、滞日年数にも日本語の力にもばらつきがあるが、お互いを尊重し合い助け合う関係ができつつある。とはいえ、高校2年という中弛みの時期でもあり、生徒自身が苦手意識をもつ活動に対しては消極的な様子もみられる。一方、人前で発表することやディスカッションすることについては、積極的に行うことが多いが、日本語で書くことに苦手意識の強い生徒が大半である。

そこで、学習活動の思考レベルを高く維持したまま、生徒たちの書くことに対する苦手意識を少しでも克服できるよう、クラス内での発表にとどまらず、読み手が外部の大人(生野区長)であることを前提とした活動を計画した。自身のアイデアを書いた制作物が認められ、実際に区政に反映されていく可能性もあるため、市民性を培いながら、多角的・批判的思考力と論理的思考力を高めることにもつながるだろう。学校内のみならず、社会の一員としてより良いまちづくりを考える場面を設けることにより、全人的な発達を助長することも目的としている。

サバイバル (初期指導)	取り出し 指導	在籍指導 (入り込み含む)	放課後 NPO
	✓		
個人	小集団	大集団	オンライン
		✓	

実践の概要

ねらい	区政に関する提案をするという目的のもと、論理的、批判的、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる 〈目標の力：E～F 5～7〉		
目標に向けた重点活動	<input type="checkbox"/> 聞く・話す	<input type="checkbox"/> 読む	<input checked="" type="checkbox"/> 書く
指導形態	取り出し指導	指導扱い 教科・科目（2単位） 少人数指導（選択科目）	指導時間 週2（1回100分）

実践の見どころ

本実践は、国語科の科目「論理国語」の学習指導要領に則ったねらいを立て、生徒の論理的思考力を高めながら、市民性教育の一環として行なった授業です。実際に区役所と密な連携を行い、区長との対談や選挙管理委員会の支援が実現し、完成した授業です。参政権がない外国籍住民だとはいえ請願権はあり、その権利として区に提案書を提出するという形で自らの声を行政に届ける活動としました。一市民としてよりよい街づくりのためにできることを考え、それが大人に伝わり、「受け入れられる」「認められる」という成功経験を重ねることにより、多文化多言語生徒たちの自尊感情の確立、学習意欲の向上につながります。学校内のみならず地域の資源を巻き込むことは、実践教員側の事前準備に多くの時間を割くことになりませんが、その分、生徒たちは自分が伝えたいことを真剣に考えます。

生徒が自らもっと良い表現はないかと考えながら、自分の意見をまとめ上げ、他者を説得していく姿が見られたときは、まさにそれぞれの生徒が全てのことばの力を使って考え成長しているときだと感じられました。

指導計画（全18時間）

時	ねらい	学習活動等	その時間につけたい力や指導・支援のポイント	
1・2	生野区の行政について理解する	生野区企画総務課の方のお話を聞く	☆外国人住民向けに書かれた生野区政についての内容が概ね理解できる	★区役所の方の話を踏まえて区政の課題に関する質問や感想を考えることができる
3～5	社会のウェルビーイングについて区でどのような取り組みが行われているかまとめることができる	グループに分かれ、区政内容（将来ビジョン計画書）を精読し、施策を理解しどのウェルビーイングが達成されるか考える	☆写真付き区政ビジョンや区政の発表で用いられたやさしい日本語のスライドをもとに、内容を概ね理解することができ、キーワードを取り上げウェルビーイングの種類に分類することができる	○★区政ビジョンやそれに付随する資料を読み、主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている
6・7	区長の話聞き、自分の意見を伝えることができる	区長・副区長との対談会（フリートーク）	☆区長や司会の問いかけに対してレベルに応じて適切に返答できる	○★多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にしている
8・9	提案書の意味・形式について知る	<ul style="list-style-type: none"> 先輩の提案書を読み、内容を確認する 提案書・提案詳細作文・ポンチ絵の書き方について知る 	☆提案作文や提案書（簡略版）を読み、語彙や表現、文型がレベルに応じて把握できる	○★書き手の立場や目的を考えながら、内容や構成、論理の展開を捉え、要旨を把握することができる

時	ねらい	学習活動等	その時間につけたい力や指導・支援のポイント	
10~15	データや根拠を示して説得力のある文章を書く	みんなが生きやすい街、より良い街になるための提案内容を決め、3つの課題を完成させる	☆自分の提案について、読み手を意識しつつ、レベルに応じた文章が書ける	○★自身の提案に関連する複数の文章や資料を基に、根拠を示し、主張を明確にできる
16・17	自分の提案を他者に伝える・説得する〈本時〉	「わかば町」議会選挙（生野区議員になりきり、提案書について演説する）（資料①～②）	☆聞き手を意識しつつ、レベルに応じた語彙・表現等を用いて、自分の提案を相手に伝えることができる	★自分の提案についての論拠を示しながら、一貫性のある意見を述べるができる。他者の意見に反駁する質問をすることができる
18	ふりかえり	前時をふまえ、提案書の推敲する（資料③）	☆レベルに応じて提案書の語彙・表現等をよりよく修正できる	○★他者からの助言等を踏まえて、内容がより効果的に伝わるように自分の文章を捉え直している

授業の流れ（16～17/18）

ねらい（目標） 自分の提案を他者に伝える・説得する。

分	学習活動等	指導・支援のポイント
10	1. 本日の流れの説明 <ul style="list-style-type: none"> 原稿配付 選挙管理委員会の方に挨拶 <div>緊張感がうまれる</div> <ul style="list-style-type: none"> 第1セッションの準備 メモシートを配付、説明 	☆本日の流れをスライドに写し、時間の流れを視覚的にも意識させる ★自身の提案を最終確認し、他者に伝える準備をするように促す。場に応じた話し方になるよう、議員と区民になるというロールプレイを意識させる ○ことばを通して自身の提案が他者に伝わるような態度を養う
30 +5 +30	<div>区議会議員になりきる</div> 2. 発表セッション（5分（発表、質疑応答）×5回の発表）×2 <ul style="list-style-type: none"> 発表者：議員になりきって、聴者を説得する 聴者：適宜メモをとり、発表者の提案を聞く 	☆全員必ず5回の発表ができるよう、聞き手が集まらなかったテーブルには実践者が入るようにする ★相手の提案を聞いて疑問点等を質問することができるよう、メモは何語で書いても良いように声掛けをする ○ことばを通して他者や社会に関わろうとする態度を養う
20	3. 選挙管理委員会の方による選挙の仕組み説明 4. 疑似投票 <ul style="list-style-type: none"> 生野区をより良い街にするために一番良い提案者に投票する 	♡発表のがんばりを思いっきりほめる ○公共との連携により、選挙の仕組みについて理解する ★他者の発表を聞き、より良い街になるために最もふさわしい提案を選ぶように促す
5	まとめ	

資料① 授業の様子



〈発表セッションの様子（全体）〉
個別ブースを作り、発表者と聴者の距離を近くし、よりこまかにやり取りができるようにしました。



〈発表セッションの様子（全体）〉
何回も発表を重ねるうちに、質疑応答も活発になっていきました。



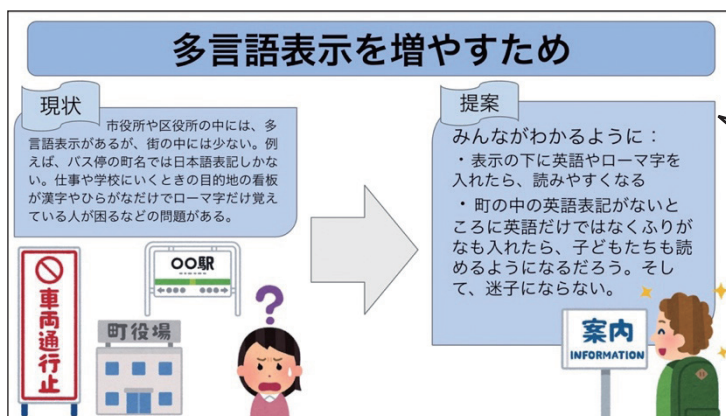
〈疑似での投票用紙交付の様子〉
実際と同様に案内状を渡すとともに生年月日を言い、投票用紙を交付していただきました。



〈疑似投票の様子〉
生野区の選挙管理委員会の方の温かい見守り付きです。



資料② 生徒が発表で準備したポンチ絵



発表前に、特に伝えたいことのポイントは何かをさせるため、プレゼン形式のスライドではなく、あえて1スライドにまとめ、図式化することにより、生徒の頭の中も整理され、発表時の伝えたいポイントも明確になっていきました。

子どもの様子&実践者の気づき

本実践では、区長を説得するためにデータや自らの経験を用いて論理的に自分の意見を主張することを目指したため、普段は課題を「させられている」生徒に自ら進んで取り組む姿勢がみられたうえに、なかなか期限が守れない生徒も、授業中に終わらなければ家で原稿を書いてくるという変化もみられました。書くことに抵抗を持つ生徒が多いなか、生徒と実践者一対一での対話時間を作ったことで、生徒の考えていることが言語化されていく過程を目の当たりにすることができました。どの生徒も、ここぞとばかりに自分のアイディアを目を輝かせて話してくれました。一度アウトプットしたことで綴ることにつながった生徒が大半でした。

発表機会を一人あたり5回設けたことで、初回の発表で受けた質問等を次の発表に活かし改善していくことにもつながったと思います。当初は5回の発表に抵抗していた生徒も、いざ発表の場になると、各回とも聴者に一生懸命伝えようとする姿、誰もブースに来なければ聞きにくくよう他の生徒を呼ぶ姿もみられました。自らの意見が社会を変えると生徒自身が思えるテーマでの学習に設定することの醍醐味を改めて感じました。

子どもが輝く授業のデザイン

本実践の対象生徒は、全て外国籍の生徒であり日本では地方参政権も認められていない生徒です。その選挙制度には参画できないけれども、一市民として請願権はもっていること、論理的に相手を説得することを学び今後の日本での生活に活かしてほしいと願って行いました。

本校では、日本語に関する学校設定教科名が「自己実現のための日本語」です。卒業後自分の夢を叶え自信を持って社会に羽ばたいてほしいという願いが込められています。本実践は国語科の授業ではありますが、本校ではどの授業においても同じ願いを込めて授業づくりを行なっています。

本校の多文化多言語の生徒の約7割が家族滞在の在留資格の生徒です。社会に出るためには法の壁をはじめ、多くの壁を乗り越えていかなければならないですが、社会に出ても自分をしっかりと持ち前進し続ける力を授業で養ってもらい、決して社会的弱者になるのではなく、良き市民として活躍できる人になってほしいと思っています。社会に出る前の最後の砦としての高校での学びを生徒と創り上げていく、そんな授業でありたいと願います。